

事業テーマ：電子タグ自動貼付・書込機の開発による検査用試薬ボトルの生産コスト削減の実現

事業者名：株式会社シノテスト 事業年度：平成27年度

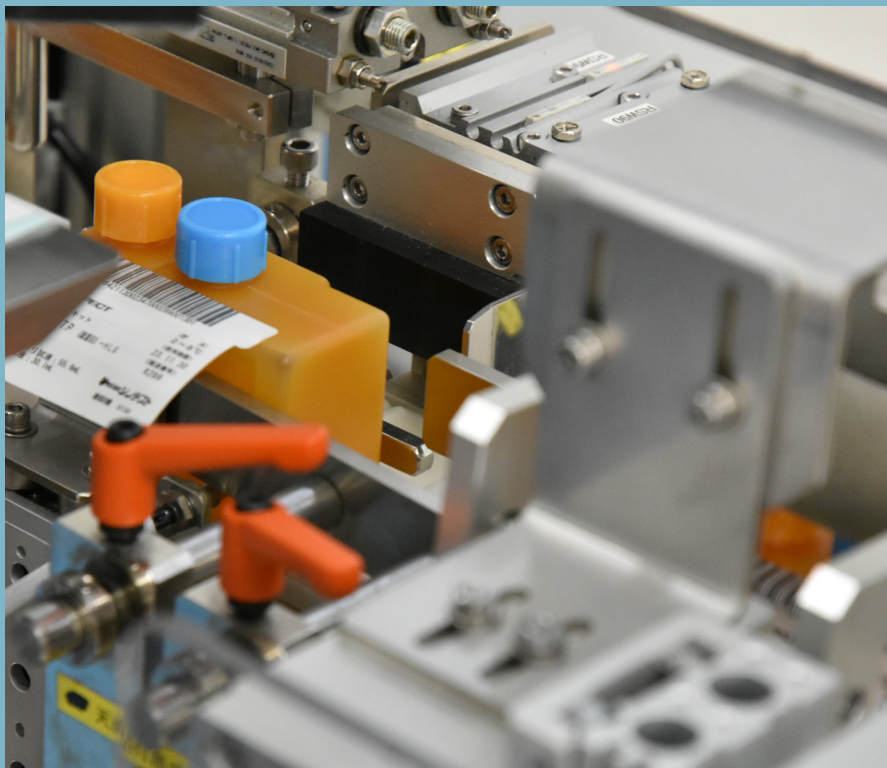
Case

1

ものづくり技術

試薬容器へのラベル貼付け工程の自動化による生産性向上への取り組み

臨床検査薬のニーズの多様化と、生産量の一層の拡大には工程の自動化が必要であり、今回、容器やラベル貼付け工程を改善し、生産性を向上させた。



紙のラベルと共に電子タグも一緒に貼り付け、生産量は向上 不良も自動で選別する



導入した製造ライン

補助事業のきっかけ

- ・当社は臨床検査薬（試薬）を製造・販売している。治療薬は病気を治す薬であることに對して、臨床検査薬は病気や治療の経過や予後の診断の補助に使われている。
- ・医療現場における試薬の用途拡大と共に出荷本数が増える中、製造工程の効率化が必要であった。

事業計画の概要

- ・臨床検査では第一試薬と第二試薬を使うが、多くの製品は別々に販売していた。近年、一体構造のボトルの要求が増加していたので、設備投資を行い製造工程の効率化に取組んだ。
- ・従来はラベルを貼り付けた後に再度電子タグを貼る2工程だったが、新設備では1工程で貼り付ける仕様とした。

事業化状況

- ・工程を改善し効率化できたことで生産量は向上した。投資対効果が実証できたので、他工程でも設備の刷新を進めた。

試薬の用途が拡大

当社は1951年に世界で初めて臨床検査薬キットを製造・販売しました。臨床検査薬（以下、試薬）は患者の容態に対する医師の診断、治療方針の判断等に無くてはならない医薬品の一つです。顧客は検査を行う医療機関です。現在は検査の自動化が進み、自動分析装置を用いることも多くなりました。技術が進歩し検査に使用する試薬（液体）の量は市場全体で減少しています。しかし、様々な患者の容態を検査するため試薬の用途は拡大しており、出荷本数は伸びています。2010年に生産拠点となる相模原生産センターを稼働し、生産性向上のためにITを活用した製造工程のデジタル管理も行なっていましたが、一層の効率化が必要でした。補助事業当時、大型の製造依頼がありました。試薬は、第一試薬と第二試薬を使います。多くの製品は別々に販売していましたが、一体構造ボトル用の製造工程の効率化に補助金を活用し、通常ラベルと電子タグを貼付ける仕様を計画しました。

生産性の向上へ

市場の伸びを予測することは難しく、計画段階では投資対効果を算出することに難儀しましたが、資金面で補助があったことは大きな助けになりました。導入してみると、他工程でも活用できることが分かり、工場内の革新も進みました。特に、作業者の精神的な負担が軽減された効果は大きいです。「試薬に不良は出せない」という責任感で作業が丁寧になり、時間もかかっていました。この点も改善され、生産性は向上しました。販売面では効果や利用者の声を伝える専門的なコミュニケーションが求められます。当社は営業部隊を持ち直接情報を提供することで、顧客と向き合いながら会社や製品に対する信頼を培ってきました。このようなサポートは事業を継続する上で製品の品質と同じく重要と考えています。現場では顧客のニーズを直接聞くこともできるので、製品改良も頻繁に行います。IT化を進めた工場は、このような営業と製造の連携において、スムーズな情報の共有や伝達にも貢献しています。

企業概要



1951年に世界に先駆けて臨床検査薬の製造、販売を始めた会社である。臨床検査薬は、人の血液に含まれる鉄・コレステロールなどの成分を測定する試薬で健康状態を把握するために行う健康診断や病気の診断などに使われている。これまで4,000以上の病院・医療機関に自社の臨床検査薬を提供しており、現在では生化学分野での製品開発はもちろん、免疫検査分野や遺伝子検査分野へ研究・開発の幅を広げている。

🏢 株式会社シノテスト

👤 代表取締役 塚田聡

📅 1951年9月

📍 〒252-0331
相模原市南区大野台
4-1-93 相模原生産センター

👥 314人

💰 140百万円

🏭 医薬品製造業

▶▶ WEBサイト



取材の現場から

当社は試薬の製造方法を効率化したことで生産性を向上させた。この改善を、同業他社にも工場見学で共有したとのこと。本来、ノウハウの詰まった製造方法は機密扱いとなるが、あえて公開することで、Give & Take精神で、お互いの学習機会にしているという。業界全体をより良くすることを目指す、視座の高さも特長である。